

第 58 回高知県献血推進協議会議事要旨

- 1 日 時 令和 4 年 3 月 29 日（火） 18：30～20：00
- 2 場 所 高知県庁 2 階 第二応接室
- 3 出席者 高知県献血推進協議会委員 18 名（代理出席を含む）
日本赤十字社高知県支部 1 名
高知県赤十字血液センター 4 名
事務局（薬務衛生課） 5 名

4 議 題

- (1) 高知県の血液事業の概要について
- (2) 令和 4 年度高知県献血推進計画について

5 議事の経過の概要

議長の議事進行により、各議題について事務局及び高知県赤十字血液センターから説明があり、質疑等が行われた。

議題（1）報告事項「高知県の血液事業の概要について」

事務局及び高知県赤十字血液センターから、「高知県の血液事業の概要について」説明があった。

意見等

- ・委員より、高校生への啓発として、学校献血については教職員対象としたこれまでの取り組みを続けるとともに、生徒に対しては、献血に関する正しい知識の普及啓発を行い献血に対する意識を高めていくとの意見があった。また、今後は大学生等の若年層向けの献血キャンペーン等啓発活動に高校生も参加できるよう関連部署と検討していきたいと意見があった。
- ・委員より、献血可能年齢になった学生に対しては、学校から、献血に関する資料や、地域での献血バスの日程表を案内するよう要望があった。
- ・委員より、200mL 献血由来の血液製剤を使用すると、400mL 献血由来の血液製剤に比べて輸血による副作用発生の可能性が高くなるため、400mL 献血が推進されているとの説明があった。
- ・委員より、高校への献血バスの配車については、献血しなければならないというプレッシャーを感じる生徒が出てくること等懸念されるため、献血をしてみたいという意欲のある生徒への働きかけが必要との意見があった。
- ・委員より、10 代の学生に対しては、興味を引くような動画や DVD 等で啓発することにより、大学等に進学した後に献血に参加しやすくなるのではと意見があった。また、高校生よりも大学生や専門学校生の方が人数を確保しやすいため、大学生等に対する働きかけも進める必要があるとの意見があった。

議題（２）協議事項「令和４年度高知県献血推進計画について」

事務局から、「令和４年度高知県献血推進計画について」説明があった。

意見等

- ・委員より、以前従業員を対象とした事業所献血を実施した際、事前のインフルエンザワクチン接種により献血できなくなるような事態が発生しかけた事例があったため、市町村からワクチン接種時に接種後何日間は献血できない等の案内をしてもらう等献血者への配慮について要望があり、事務局よりワクチン接種後のタイミングもふまえて献血車の配車計画をたてれるよう協力していくとの回答があった。
- ・委員より「はたちの献血」キャンペーンについては、成人年齢が18歳に引き下げられるためキャンペーンの呼称は「はたち」で問題ないかとの意見があった。
- ・委員より、ラブラッドのサービス機能の向上について意見があり、高知県赤十字血液センターより機能改善に係る要望について本社へ伝えると回答があった。
- ・議長より、ラブラッドが発信する情報についての質問があり、高知県赤十字血液センターより、献血状況、献血の実施日、場所等の情報について発信していると説明があった。

議長から、令和４年度高知県献血推進計画（案）について協議会として賛同してよいか協議があり、全会一致で賛同された。